１．平成３０年度の主な動き

【運営委員会】

平成 30 年度は、運営委員会再編により図書部会・教育研究用情報システム部会が廃止されたため、図書部会事項については運営委員会で、教育研究用情報システムについては、新たに発足した教育研究用情報システム実務者会議（以下、「実務者会議」）および運営委員会で取り扱うことになった。

運営委員会は 10 回開催し、下記案件等の重要事項の審議のほか、教育研究用情報処理システムの更新にかかわる実務者会議の報告などを行った。

・学術情報総合センター有料施設利用規程の改定について
・基礎的設備資料の今後のあり方について
・子育て中の研究者支援について
・全学共通電子ジャーナルについて
・新法人設立に伴う学術情報総合センター関連規程の改正について

【センター教員組織】

平成 30 年度については、次年度秋の教育研究システムの更新に向けて、教育研究用情報処理システム実務者会議を中心として仕様書策定に貢献した。
また、所長業務のサポートなどを行う要員として特任教員 1 名が平成 30 年 4 月に採用され、将来構想の検討や利用者アンケート分析に携わるほか、実務者会議にも参画した。

【図書部門】

平成 30 年度は 2 件のアンケートを実施した。一つは、海外論文データベースである Web of Science の利用調査を 5 月から 6 月にかけて行い、本学研究者の当該データベースの利用状況を把握し次年度購読の判断に利用した。
また、学生の入館者数減少の原因を探ること主な目的とした学生アンケートを実施した。実施にあたっては、運営課および情報推進課合同で WG を結成し、質問項目や実施方法の検討、結果の分析等を行った。

4 月に施行開始した「大阪市立大学オープンアクセス方針」に従い、学術機関リポジトリ OCURA への登録による学内研究成果の公開を促進した結果、査読論文のリポジトリ掲載件数が飛躍的に増加した。更に、本学紀要３誌（『大阪市立大学看護学雑誌』『経済学雑誌』『大阪市立大学健康・スポーツ科学』）について OCURA をプラットフォームとした電子ジャーナル化を実現した。

（本館）

館内設備、什器の老朽化対策として、電動集密書架の総点検、閲覧椅子の一部入替え及び張替えを実施した。5 階の AV ホールについては操作卓などを更新したほか、大型タッチパネルディスプレイなど新しい機器を導入した。

育児中の本学構成員の学習・研究に対する支援策として、これまで認めていなかった子ども同伴でのセンター利用（学内者限定）を可能とした。

資料の適正配置による利便性向上のため、昨年度からの継続事業である経済研究所文庫社史コレクションのセンターへの移動を完了させた。これにより学部学生にも比較的利用の多い社史をセンターで一元的に提供することが可能になった。

（医学分館）

資料の充実と利便性の向上をはかるため、医学映像教育の DVD を、電子ブックサイト(WEB 上)で提供することで、学内だけに限らず、学外からも利用できる方向での資料購入に変更した。また、8 月より国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスを開始した。

書庫スペース狭隘化のための対応策としては、重複図書資料の廃棄（第 2 期・約 2,900 冊）を実施した。

阿倍野地区の会議室不足に対応するため、分館棟 4F 閲覧室の一部を会議等の利用も可能な研修室に改修し、次年度より利用を開始する。

【情報処理部門】

平成 26 年に導入した現行システムが令和 1 年 9 月をもって借入期間が終了するため、平成 29 年度末に教育担当副学長の特命により「システム更新に係わる情報教育のあり方検討会議」が設置され、教育研究用情報処理システムの主管である学術情報総合センター教員を中心に、情報基盤センター教員、授業での利用者として文系･理系教員の代表者を交え､次期システム更新に係る課題と要望の整理及び仕様の検討を行った。

なお、今回のシステム更新は、端末の老朽化並びに各種機器の保守、サポート期限が迫っていた「外国語特別演習室」及び「図形科学演習室」のシステムについても教育研究用情報処理システムと統合して運用、整備することとなった。

また、現行教育研究用情報処理システムを安定的に運用し、円滑な授業運営に資するため、計画的なメンテナンスやソフトウェアのアップデート、また随時不具合発生時の対応を行った。

【恒藤記念室】

平成 22 年度に、大学史資料室を中心として立ち上げられた学内研究「大阪市立大学と恒藤恭―都市が大学をもつ理由の歴史的研究―」を契機とし、以降、シンポジウムの開催及び恒藤記念室叢書発行を継続して行ってきた。今年度は 9 月 7 日にシンポジウム準備研究会、12 月 8 日に第 8 回恒藤恭シンポジウム「日本国憲法と恒藤恭」を開催した。また、5 月 25 日に開催された、都市経営研究科開設記念シンポジウム「小磯良平が描いた恒藤恭－大学の原点をみつめて」にパネリストとして参加した。

なお、叢書については来年度の発行に向け、恒藤恭の 1948 年、1949 年の学長時代の日記と、同年の講演等レジュメの翻刻作業を進めた。